

「(是) NV 的 (N)」構文における「的」の統語的特性と意味解釈

郭 楊*¹・廣江 顕*²

*¹長崎大学（非常勤）・*²長崎大学言語教育研究センター

Semantic Interpretations and Syntactic Properties of *De* in the (*Shi*) *N V de (N)* Construction

Yang GUO*¹, Akira HIROE*²

*¹Nagasaki University (part-time)・

*²Center for Language Studies, Nagasaki University

Abstract

This paper deals with the particle *de* as an aspectual marker, not a nominalizer, in the Chinese (*Shi*) *N V de (N)* construction, arguing that the whole construction in question, in addition to the event denoted by a verb, is specified by the particle with respect to aspect. Moreover, the aspectuality can be satisfied with appropriate pragmatic contexts as well. On the semantic side, the subject (actor) in the construction undergoes a focus interpretation.

Keywords: *de*, Chinese (*Shi*) *N V de (N)* construction, aspect, actor, focus interpretation

1. 問題の所在

本論では、中国語における「是」と「的」が共起するすべての事実を取り上げることとはせず、いわゆる「(是) N V 的 (N)」構文（以下、「是的構文」と表記する）のみを扱い、その構文における「的」の統語的特性とその構文が持つ意味解釈を分析するものとする。

そもそも中国語における助詞「的」は、日本語の格助詞の「の」と似た働きを持つ場合と、名詞化接辞としての働きを持つ場合の二種類があることがよく知られている。まず、本論で取り上げる是的構文の例を観察してみよう。¹

- (1) a. (Shi) Xiaoyong ca de heiban.
 (是) 小勇 擦 的 黑板
 shi 勇さん 拭く de 黑板
 ‘勇さんが黑板を拭いたのだ’
- b. (Shi) Xiaoyong kan de shu.
 (是) 小勇 砍 的 树
 shi 勇さん 切断する de 木
 ‘勇さんが木を切断したのだ’
- c. (Shi) Xiaoyong fu de qian.
 (是) 小勇 付 的 钱
 shi 勇さん 支払う de お金
 ‘勇さんがお金を支払ったのだ’

(1a)-(1c)の是的構文とは対照的に、(2a)-(2c)は容認されない。

- (2) a. *(Shi) Xiaoyong kan de heiban.
 (是) 小勇 看 的 黑板
 shi 勇さん 見る de 黑板
- b. *(Shi) Xiaoyong pa de shu.
 (是) 小勇 爬 的 树
 shi 勇さん 登る de 木
- c. *(Shi) Xiaoyong xiao de.
 (是) 小勇 笑 的
 shi 勇さん 笑う de

(1)(2)いずれの場合も文脈自由 (context-free) な環境だが、(2a)-(2c)のような容認不可能な例でも、以下(3)に示されているような文脈があれば、(2a)-(2c)はすべて容認される文になる。(3)の例を観察してみよう。

- (3) a. 先生が黑板に回答を書きながら、生徒に練習問題を自分で完成させるまでに黑板を見てはいけないと指示を出したにもかかわらず、「先生！回答を見た人がいる！」と申し出た生徒に対し、先生が「誰だ?!」と尋ねた際の生徒の回答。
 (Shi) Xiaoyong kan de heiban.
 (是) 小勇 看 的 黑板

shi 勇さん 見る de 黒板

‘勇さんが黒板を見たのだ’

- b. 庭にある柿の木の枝がいっぱい折れ落ちているのを見て、お父さんが子供たちに「誰がやったの？」と尋ねた際の次男の回答。

(Shi) Xiaoyong pa de shu.

(是) 小勇 爬 的 树

shi 勇さん 登る de 木

‘勇ちゃんが木を登ったのだ’

- c. 試験中に、笑い声を聴いた先生がみんなに「誰だ?!」と尋ねた際の、一人の生徒が回答。

(Shi) Xiaoyong xiao de.

(是) 小勇 笑 的

shi 勇さん 笑う de

‘勇さんが笑ったのだ’

(2)と(3)の例は、相応の文脈があるか否かという点においてのみ異なっており、それ以外はすべて同じである。このことから、是的構文は、「V という行為を行ったことにより、まわりに何かしらの影響を及ぼしたのは N だ」という意味を基本的に有する構文だと言えそうである。ところが、以下に例示されている(4a)-(4c)は、(3)の場合とは異なり、文脈設定の如何にかかわらず容認不可能な文となる。

(4) a. *(Shi) Xiaoyong you de naben shu.

(是) 小勇 有 的 那本 书

shi 勇さん 有する de あの 本

b. *(Shi) Xiaoyong si de.

(是) 小勇 死 的

shi 勇さん 死ぬ de

c. *(Shi) Xiaoyong liu de xue.

(是) 小勇 留 的 学

shi 勇さん 留学する de

本論では、以上の事実から、(2)と(3)の容認可能性の対比を引き起こしているのは、是的構文における助詞「的」の統語的特性との仮説を立て、(1)-(4)の例で観察したような是的構文における助詞「的」の統語的特性を考察し、(2)と(3)の対比を引き起こしているメカニズムを提案し、(4)が容認不可能な要因は当該構文に現れている語彙

の特性によるものだとの分析を提示する。さらに、是的構文固有の意味解釈を生じさせている理由も明らかにしたい。

本論の構成は、以下の通りである。2節では、「的」に関する先行研究の朱（1978）と袁（2003）を概観し、その問題点を指摘する。3節では、是的構文における「的」のアスペクト特性を、同じ中国語の完了を表す「了」と比較することにより、明らかにする。また、是的構文の主語は、「的」のアスペクト特性から導かれる、フォーカスとしての解釈を受けることを主張する。

2. 先行研究における分析

本節では、朱（1978）と袁（2003）で提示された「的」に関するデータとその分析方法を概観し、是的構文の「的」に二つの論考の分析を適用した場合、その分析には瑕疵があるとの主張を行う。²「的」については、朱（1978）をはじめ、多くの先行研究で名詞化接辞であるとの分析が提示されている。^{3,4}

(5) “小王是昨天晚上来的。”

(朱 (1978b))

(5)の例で、朱は「小王是昨天晚上来的（王さんは昨日来た）」の解釈は、「可以解释是昨天晚上来的人这个类里头的一个成素（王さんは、昨日来た人の集合の中の一人）」であるとの主張を行なっている。⁵つまり、朱（1978）は、「的」の後ろに中心語「人」が省略され、「的」は小王是昨天晚上来的全体を名詞化する名詞化接辞だと主張している。袁（2003）も、基本的には朱（1978）の分析を受け継ぎ、(6)のように「的」を分析している。⁶

(6) 指某人所具有的昨天晚上来到某处这种属性，可以用莱姆答（lambda）标记法（λ-notation）表示为；[λx（x 昨天晚上来）]（小王）。

(袁 (2003: 10))

袁（2003）は、朱（1978b）の(5)の例を「昨日の夜来たという特性を、x という人が有している」と言い換えたに過ぎず、「的」が名詞化接辞であるという認識については、朱（1978b）と同じである。

杉村（1999）も、朱（1978b）の分析を、以下(7)のように、引き継いでいる。⁷

(7) 如何评价并吸收朱德熙 1978 的观点，对于更深入地研究“是...的”句的结构，语义特点，是至关重要的。（中略）我们采用（一）“的”字是结构助词；（後略）

(杉村 (1999))

しかしながら、是的構文における「的」が名詞化接辞であるとする分析には、二つの大きな問題がある。以下の(8)を観察してみよう。

- (8) Xiaowang zuotian wanshang lai **de**.
 小王 昨天 晚上 来 的。
 王さん 昨日 夜 来る de
 ‘王さんは昨日の夜来たのだ’

(8)における「的」が名詞化接辞だとすると、「的」の後ろに当該名詞節の主要部「人」が省略されていることになるが、(8)では「人」だけでなく、コンピュータ文で観察される「是」まで省略されていると言わざるをえないことになる。しかし、以下で示されているように、中国語のコンピュータ文にとっては、「是」は義務的である。

- (9) Xiaowang (***shi**) daxuesheng.
 小王 是 大学生
 王さん shi 大学生
 ‘王さんは大学生だ’

つまり、(8)が容認可能であるということは、(8)がコンピュータ文でないということを強く示唆している。

是的構文の「的」が名詞化接辞と分析する際のもう一つの問題点は、以下のような目的語の「票 (チケット)」がある文でより明確になる。(10)と(11)を観察してみよう。

- (10) Xiaowang zuotian wanshang mai **de** piao.
 小王 昨天 晚上 买 的 票
 王さん 昨日 夜 買う de チケット
 ‘王さんは昨日の夜チケットを買ったのだ’

- (11) [_N Xiaowang] shi [_{NP} zuotian wanshang mai piao de ren].
 小王 是 昨天 晚上 买 票 的 人。
 王さん shi 昨日 夜 買う チケット de 人
 ‘王さんは昨日の夜チケットを買った人だ’

(11)がコンピュータ文であることは、「是」があることから明らかだが、(10)を(11)と同

じ構造だとみなすのには、(11)が「人」で終わっているという語順の点から言っても無理がある。

以上、是的構文の「的」が名詞化接辞であるとする分析には問題があることを見てきた。動詞の直後（あるいは目的語の前）に「的」がある場合、明らかに名詞化接辞とは異なる働きをしていると考えられる。そこで、次節では、是的構文の「的」はアスペクト助詞であるとの分析を提示し、その分析の帰結として、主語が必ず焦点の解釈を受けることを示していくものとする。

3. 新しい分析

従来は、「是」と「的」が共起さえしていれば、是的構文だと一括りにしていたが、前節までの議論を踏まえれば、必ずしもそうではない。本節では、従来で提示されてきた名詞化接辞としての「的」とは異なり、是的構文の「的」は、アスペクトに関わっているとの主張を行う。

本論の考察対象である助詞「的」は、その分布や解釈が完了を表す中国語のアスペクトを表す助詞の「了」と極めて似通っている点が多いことから、その「了」と対比させながら、「的」のアスペクト性と是的構文の意味的特徴を明らかにしていくものとする。

3.1 完了の助詞「了」との類似性

完了を表す中国語の助詞「了」は、通常の場合、動詞と目的語の間に生起する。⁸

- (12) a. Xiaowang he le yibei kele.
 小王 喝 了 一杯 可乐。
 王さん 飲む le 一杯 コーラ
 ‘王さんはコーラを一杯飲んだ’
- b. ^{??}Xiaowang he yibei kele le
 小王 喝 一杯 可乐 了
 王さん 飲む 一杯 コーラ le

「的」の生起する場所は、(12)の「了」と同じく、原則、動詞の直後にしか生起しない。

- (13) a. Xiaowang he de kele.
 小王 喝 的 可乐
 王さん 飲む de コーラ

‘王さんが (あの) コーラを飲んだのだ’

- b. *Xiaowang he kele de.
 小王 喝 可乐 的
 王さん 飲む コーラ de

「了」を含む SVO 語順文は、通常、イベントが完了したことしか表さない。したがって、「了」は未来や一般現在を表す時間副詞の「一会儿 (のちほど)」や「总是 (いつも)」とは共起できない。

- (14) a. Xiaowang he le kele.
 小王 喝 了 可乐
 王さん 飲む le コーラ
 ‘王さんはコーラを飲んだ’
- b. Xiaowang gangcai he le kele.
 小王 刚才 喝 了 可乐
 王さん さきほど 飲む le コーラ
 ‘王さんはさきほどコーラを飲んだ’
- c. *Xiaowang yihuier he le kele.
 *小王 一会儿 喝 了 可乐
 王さん のちほど 飲む le コーラ
- d. *Xiaowang zongshi he le kele.
 *小王 总是 喝 了 可乐
 王さん いつも 飲む le コーラ

この点においても、「的」は「了」と全く同じである。「的」の意味解釈も同様に、イベントの完了しか表さないので、文中に時間副詞があるとすれば、(15b)のような「刚才 (さきほど)」はよいが、(15c)で観察される「一会儿 (のちほど)」や(15d)の「总是 (いつも)」は共起できないことが分かる。

- (15) a. Xiaowang he de kele.
 小王 喝 的 可乐
 王さん 飲む de コーラ
 ‘王さんがコーラを飲んだのだ’
- b. Xiaowang gangcai he de kele.
 小王 刚才 喝 的 可乐

- 王さん さきほど 飲む de コーラ
 ‘王さんはさきほどコーラを飲んだのだ’
- c. *Xiaowang yihuier he de kele.
 *小王 一会儿 喝 的 可乐
 王さん のちほど 飲む de コーラ
- d. *Xiaowang zongshi he de kele.
 *小王 总是 喝 的 可乐
 王さん いつも 飲む de コーラ

3.2 「的」のアスペクト特性と焦点解釈

前節における議論から、本論のトピックである是的構文の「的」は、「了」と同様、完了を表す助詞と考えるのが自然かもしれない。しかし、だからと言って、「了」と「的」がその意味において完全に同一だと主張しているわけではない。具体的に以下の例で見てみよう。(16b)の「了」を伴った文が、返答として最適な疑問文は(16a)である。

- (16) a. Fasheng le shengme?
 发生 了 什么?
 起きる le なに
 ‘なにが起こったの?’
- b. Xiaowang kan le shu.
 小王 砍 了 树。
 王さん 切断する le 木
 ‘王さんは木を切った’

しかし、(16b)の「了」を「的」にした(17b)の場合、(16a)は(17b)の最適な疑問文とはならない。

- (17) a. Fasheng le shengme?
 发生 了 什么?
 起きる le なに
 ‘なにが起こったの?’
- b. #Xiaowang kan de shu.
 小王 砍 的 树。
 王さん 切断する de 木

‘王さんが木を切ったのだ’

「了」は、前節で見たように、何かのイベントが完了したという意味で、(16b)では、王さんが木を切ることが完了したという意味しか表さない。一方、「的」は、イベントが完了したという意味に加えて、イベント前と比較してイベント後に何かの状態が変わってしまうということと、wh 疑問文の返答になってということから分かるように、その状態変化をもたらしたのは誰であるかを特定する、つまり是的構文の主語に focus の解釈を与えさせる特性がある。そこで、「的」を伴う(17b)が(17a)の最適な返答にならない理由は、「なにが起こったの？」という質問に対して、「木を切ったのは王さんだ」という、木を切ったというイベントによる（例えば森の）状態変化をいったい誰が引き起こしたのかを特定するという、「的」が要請する返答と、(17a)が意味する、応答文全体が新情報にならなければいけない wh 疑問文とは相容れないからである。

(16)と(17)の違いを考察したことから分かるように、是的構文の「的」は、イベントそれ自体は完了していることを表すという点は「了」と共通しているが、「的」が当該構文の主語に焦点としての解釈を生じさせる点が、「了」にはない特性だと言うことができる。

3.3 「的」と共起する動詞タイプ

前節で述べたように、中国語の助詞「了」は、あるイベントの状態が完了していれば用いることができる。したがって、「了」は行為やイベントが未完了であることを表す動詞を含むほとんどの動詞と共起できる。⁹ 以下の例を観察してみよう。

(18) a. Xiaowang you le xin pengyou.

小王 有 了 新 朋友。

王さん いる le 新しい 友達

王さんは新しい友達ができた。

b. Xiaowang si le.

小王 死 了。

王さん 死ぬ le

王さんは死んだ。

c. Xiaowang liuxue le.

小王 留学 了。

小王 留学する le

王さんは留学した。

- d. Xiaowang **pa le** shu.
 小王 爬 了 树。
 王先生 登る le 木
 王先生は木に登った。

一方、「的」は、「了」とは異なり、どのような動詞とでも共起できるわけではない。(19)の例を観察してみよう ((19a)-(19d)は、(18a)-(18d)の「了」をすべて「的」に置き換えたもの)。

- (19) a. *Xiaowang **you de** xin pengyou.
 小王 有 的 新 朋友。
 王先生 いる de 新しい 友達
- b. *Xiaowang **si de**.
 小王 死 的。
 王先生 死ぬ de
- c. *Xiaowang **liuxue de**.
 小王 留学 的。
 小王 留学する de
- d. *Xiaowang **pa de** shu.
 小王 爬 的 树。
 王先生 登る de 木

(19)のそれぞれの例が示すのは、「有 (有る)」、「死 (死ぬ)」、「留学 (留学する)」、「爬 (登る)」という動詞によって表されるイベントの完了に加えて、当該イベントによって生じた何らかの状態変化を王先生が引き起こしたとは考えにくいため、(19)はすべて非文となっている。

本論では、(19)に例示されているような動詞には[-affect]という意味素性があると仮定する。一方、是的構文と共起する、行為者あるいは動作主が行うイベントにより何らかの状態が変化することが想定できる動詞には[+affect]があると仮定する。以下の例を観察してみよう。

- (20) a. Xiaowang **fu de** qian.
 小王 付 的 钱。
 王先生 払う de お金
 ‘王先生がお会計をしてくれたのだ’

- b. Xiaowang **ban de shujia.**
小王 搬 的 书架。
王さん 移動する de 本棚
‘王さんが本棚を移動したのだ’

- c. Xiaowang **xuan de fandan.**
小王 选 的 饭店。
王さん 選ぶ de レストラン
‘王さんがレストランを選んだのだ’

(20a)の「付(払う)」、(20b)の「搬(移動する)」、(20c)「选(選ぶ)」は、本論の定義によれば、動作主が対象物に対して変化を与える動詞なので、[+affect]素性を持つため、「的」と共起できる。⁹

3.4 文脈による意味素性の変化

3.3 節で、意味素性[+affect]を持つ動詞と「的」は問題なく共起できることを見てきた。その帰結として、動詞が[-affect]という意味素性を持つ場合には、当然、「的」とは共起できないことが予想され、その予測は正しい。以下の例を観察してみよう。

- (21) a. *Xiaowang **pa de shu.**
小王 爬 的 树。
王さん 登る de 木
b. *Xiaowang **xiao de.**
小王 笑 的。
王さん 笑う de

(21a)の「爬(登る)」、(21b)の「笑(笑う)」は、それらの動詞が引き起こすイベントが完了しても、そのイベントによって影響を受ける対象者(物)や環境が想定しにくい。¹⁰

しかしながら、[-affect]という意味素性を持っているからといって、その意味素性を有するすべての動詞が「的」と共起できないわけではない。以下の例を観察してみよう。

- (22) a. 庭に大事に育てていた木の枝が散乱しているのを見て、父親が息子の二人に「誰だ?!」と聞き、次男がこのように答えた。

(shi) tailang pa de shu.

(是) 太郎 爬 的 树

shi 太郎 登る de 木

‘太郎が木に登ったのだ’

- b. 試験中に、笑い声を聴いた先生がみんなに「誰だ?!」と聞き、一人の生徒がこのように答えた。

(Shi) Xiaoyong xiao de.

(是) 小勇 笑 的

shi 勇さん 笑う de

‘勇さんが笑ったのだ’

(22a)(22b)は、(21a)(21b) それぞれに「庭に大事に育てていた木の枝が散乱しているのを見て、父親が息子の二人に「誰だ?!」と聞いた」、「試験中に、笑い声を聴いた先生がみんなに「誰だ?!」と聞いた」という文脈を与えたものである。それらの文脈が、(22a)では、木に登ったというたんなるイベントの完了にすぎない事態が、太郎が気に登ったことで、枝が折れ散乱するという事態変化を引き起こし、是的構文として認可されている。(22b)では、笑うというイベントが完了しただけでなく、本来笑ってはいけない試験という環境の中、笑ってしまったことで試験を受けている他の生徒全体と担当の先生に影響を及ぼしてしまうことで、是的構文として認可される条件を満たしている。

ここで逆に、[-affect]素性を有する動詞であっても、相応の文脈さえあれば是的構文として認可されるのではないかという疑問が生じるかもしれない。以下の例で考えてみよう ((19)を(23)として再掲示)。

(23) a. *Xiaowang you de xin pengyou.

小王 有 的 新 朋友

王さん いる de 新しい 友達

b. *Xiaowang si de.

小王 死 的

王さん 死ぬ de

c. *Xiaowang liuxue de.

小王 留学 的

小王 留学する de

(23)で示されているように、(23a)の「有 (いる)」、(23b)の「死ぬ」、(23c)の「留学

する」は、いかなる文脈に埋め込んでも是的構文として認可されることはない。その理由は、(23a)-(23c)のそれぞれの動詞を是的構文に埋め込んでも、そうした動詞が表す行為によって、まわりに何かしらの影響を与えたとは想定しにくく、結果として主語の「小王」に focus の解釈が生じないからである。¹¹

4. 結論

以上、本論では、是的構文における助詞「的」の統語的特性および意味的特性を、以下(24)で示されているように、明らかにしてきた。

- (23) a. 是的構文の「的」は、アスペクト助詞である。
b. 是的構文の「的」は[+affect]という意味素性を持った動詞としか共起できないが、[-affect]動詞であっても相応の文脈があれば、是的構文として認可される。
c. 是的構文では、行為者あるいは動作主が必ず focus 解釈を受ける。

郭(2019)では、三種類の是的構文があると主張を行なったが、本論で主張した、そのうち一種類の是的構文における「的」のアスペクト特性が、以下(24)で例示されている他の二種類の構文の「的」にも成立するのか(またしないのか)が残された課題である。

- (24) a. Chouyan **de** ren shi xiaowang.
 抽烟 的 人 是 小王。
 たばこを吸う de 人 shi 王さん
 ‘たばこを吸う人は王さんだ’
- b. Chouyan **de** shi xiaowang.
 抽烟 的 是 小王。
 たばこを吸う de shi 王さん
 ‘たばこを吸うのは王さんだ’

謝辞

本稿の執筆にあたり、2名の匿名査読者から建設的な助言をいただいた。深く感謝したい。なお、本稿に不備があるとすれば、それはすべて筆者の責任である。

注

- 1 郭（2019）では、「是」と「的」が共起する文は単一の構文ではなく、3つの異なる構文として捉えるべきだと主張している。
- 2 本論では、中国語の例文はすべて、ピンイン表記、中国語の漢字、グロス、筆者の日本語訳と構成している。したがって、引用元でその形式になっていない場合は、こちらで整えた。
- 3 外国人に中国語を教える文法書のなかでは、頻繁に、いわゆる是的構文の語用論的效果は焦点を取り立てることであると書かれてある。しかし、そうした文法書においては、学習者に文法要項を覚えやすいようにしか書かれておらず、「的」の働きについては論じていない。たとえば、荒川（2003）では、是的構文は「動作の実現より、動作の行われた時間、場所、方式、主体などにフォーカスがあるとき使う構文である」とあり、相原・他（2005）では、「ある行為が発生したこと自体は明らかで、さらにその行為の行われた時間、場所、方式を具体的に強調して述べる“是…的”という構文がある」との記述がある。さらに瀬戸口（2006）では、「すでに行われた動作について、その動作がどのようにして行われたか、行われた時間、場所、方法などを特に強調する場面で使う。“是”は強調しようとする部分の前に置き、“的”は文末に置くのが一般的である」とあり、郭（2006）では、「過去にしたことや現在も続いていることの時間、方法、場所などについて質問、あるいは説明するとき、必ず“是…的”の文型を使わなければならない。」とある。
- 4 ただし、朱（1978）と袁（2003）いずれにおいても、是的構文の「的」を考察の直接の対象にはしていない。
- 5 朱（1978b）では、「昨天・昨日）」のような付加詞を伴う「的」文を対象にしているが、付加詞があろうとなかろうと、名詞化辞の「的」しかないというのが朱（1978b）の趣旨である。
- 6 「小王（王さん）」と「昨天晚上来（昨日夜来た）的」の関係は、ラムダ表記を用いれば、 $[\lambda x$ （昨日の晩、 x が来た）]（小王）というように書き表すことができる。
- 7 本論にとって重要なのは、朱（1978）の研究において、是的構文における「的」を構造助詞とした点にあり、本論でもこの点はフォローしている。
- 8 「了」と「的」いずれにおいても、原則、動詞と目的語の間にしか生起しないが、目的語が一音節の場合には、目的語の後に生起することがある。これは中国語の音韻的な規則が関与した結果であると考えている。
- 9 動詞の分類といえば、最も権威のある分類法は Vendler（1967）が挙げられる。Vendler は主に tense・aspect の側面から、動詞を達成動詞（verbs of

accomplishment)、活動動詞 (verbs of activity)、到達動詞 (verbs of achievement) と状態動詞 (verbs of state) の四種類に分けている。筆者は本論で扱う「的」との共起性を見るために重要であると考えるのは、動詞が目的語に対する affectedness の有無と連関しているので、Vendler の分類法を採用していない。本論で[+affect 動詞]と名付けている動詞は、Vendler の達成動詞を含むといえるが、それ以外の動詞に関する Vendler の分類法との比較は、今後の研究に委ねるものとする。

10 (18d)の「爬(登る)」は、適切な文脈があれば「的」と共起できる。

11 匿名査読者から、[±affect]という意味素性をもとした動詞の分類では厳密性に欠けるとの指摘があった。さらなる精緻化は、今後の研究に委ねたい。

参考文献

- Li, Charles N. & Sandra A. Thompson (1981) *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics and Philosophy*, Cornell University Press.
- 相原茂・石田知子・戸沼市子 (2005) 『Why?にこたえるはじめての中国語野文法書』同
学社
- 荒川清秀 (2003) 『一步すすんだ中国語文法』大修館書店
- 今井隆・斎藤伸治編 (2018) 『21世紀の言語学』ひつじ書房
- 上山あゆみ (2015) 『統語意味論』名古屋大学出版会
- 小野秀樹 (2001) 「“的”の“モノ化”機能—「照応」と“是...的”文をめぐる」『現代
中国語研究』第3期: 146-158
- 小野秀樹 (2008) 『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』白帝社
- 木村秀樹 (2012) 『中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関
する研究—』白帝社
- 杉村博文 (1982) 「中国語における動詞の照応形式」『日本語と中国語の対照研究 6』
大阪外国語大学
- 杉村博文 (1997) 「名詞性連体修飾語と構造助詞“的”」『大河内康憲教授退官記念中
国語学論文集』東方書店 279-302
- 杉村博文 (1999) 「“的”字结构、承指与分类」『汉语现状与历史的研究』中国社会科学出版社 47-66
- 瀬戸口律子 (2006) 『完全マスター中国語の文法』語研
- 山梨正明 (2009) 『認知構文論—文法のゲシュタルト性』大修館書店
- 郭春貴 (2006) 『誤用から学ぶ中国語』白帝社
- 郭杨 (2019) 「“是...的”構文の多義性と“的”の本質」博士論文

- 刘丹青 (2012) 『名詞性短语的类型学研究』 商务印书馆
- 刘宁生 (1983) 「汉语口语中的双主谓结构句」『中国语文』第2期：9-21
- 刘月华·潘文娉·故鞞 (2001) 『实用现代汉语语法』 商务印书馆
- 吕叔湘 (1980) 『现代汉语八百词』 商务印书馆
- 沈家煊 (2010) 「如何解决“补语”问题」『世界汉语教学』第4期：435-445
- 王光全 (2003) 「过去完成体标记‘的’在对话语体中的使用条件」『语言研究』第23卷第4期: 18-25
- 杨凯荣 (2016) 「句中成分的焦点化动因及优先度等级——从事件句到说明句」『中国语学』263号：20-42
- 袁毓林 (2003) 「从焦点理论看句尾“的”的句法语义功能」『中国语文』第1期：3-16
- 赵元任 (1952) 『国语入门』(北京口语语法李荣编译) 开明书店
- 赵元任 (1979) 『中国话的文法』(汉语口语语法吕叔湘编译) 商务印书馆
- 张伯江 (2011) 「汉语的语法结构和语用结构」『汉语学习』第2期：3-18
- 朱德熙 (1978a) 「“的”字结构和判断句 (上)」『中国语文』第1期：23-27
- 朱德熙 (1978b) 「“的”字结构和判断句 (下)」『中国语文』第2期：104-109